
君が可愛すぎて

ナナシキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君が可愛すぎて

【Nコード】

N3433D

【作者名】

ナナシキ

【あらすじ】

君が可愛すぎてどうしようもない

泣きそうな顔して笑ってる

君が可愛すぎて

思いつき殴ってやりました。

軽い君はよく飛んで

地反吐をまき散らしてましたね

今でもその血はこの壁に残ってます

それでも立ち上がり笑う君に

恐怖さえ覚えました

なんかこう、殺す目が突き刺さってきます

同じ笑顔のはずなのに

暖かさが感じれません

戦々恐々しながらも先手を打ちます

なんかもう初期の考えは消え

やられる前にやるしかないと思いました

すると彼女から一瞬表情が消え

カウンターを合わせられました。

ここで少し意識は途絶え、

気づいときには、縛られていて

ひどく全身が傷みました。

彼女は今度こそ優しい笑顔で
傷口に塩を塗り込みながら

私さっきまでひどく落ち込んでいたの
でも、あなたのおかげで大丈夫になったみたい

とまぶしい笑顔で言われ
なぜかひどく心が痛みました

でもそれ以上に体が痛み絶叫しました。

彼女は街灯の下で佇んでいました

不思議に思い声を掛けると

どうしたの

と笑顔で答えてくれましたが

その笑顔は次第に崩れていきました

まさか彼女がそんな痛々しい顔するなんて信じれなくて

だんだん何も考えられなくなつて

君からさみしさを取り払いたくて
君をそんな顔にさせた奴が赦せなくて

気づいたら自宅で膝枕されながら地獄を味わってました。

未だに彼女に何があったかわかりません

ただこの街灯にはそんな思い出があります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3433d/>

君が可愛すぎて

2010年10月21日13時41分発行